【 香川大学教職大学院の２つの特色】　※共通科目として全員が学びます。

☆　生徒指導と道徳教育に関する指導力育成
☆　特別な教育的支援を必要とする通常学級在籍児童生徒に対する指導力育成

【３つのコース】

- **学校力開発コース**…学級経営・学年団経営や学校経営等、組織の中核的役割を担う教員の養成
- **授業力開発コース**…道徳教育や授業力向上等の学校課題解決に向けた中核教員の養成
- **特別支援教育コーディネーターコース**…特別支援教育に関わる校内体制構築の要となる教員養成

【短期履修学生制度(1 年間で修了)】

教職経験５年以上で県教育委員会からの推薦があり、審査によって認められた方は、所定のプログラムを実践することで、1 年間の履修で修了することができます。経済的負担の軽減、学校現場を離れる期間の短縮など、現職の先生方が学びやすい環境を整えています。

修了後も、大学教員が学校を訪問し、学校課題の解決のために「学び続ける教員」の実践や校内研修等をサポートします。そして、修了後の学校での実践成果を、本日の学校発表または香川大学教職大学院ブースでの**「フォローアップ・プログラム発表」**として発表いたします。

１. 研究主題

養護教諭による校内研修に関する一考察
－協働を生み出す若年研修・全体研修の試みを手がかりに－

高松市立紫雲中学校　養護教諭　橘　和代

２. 研究の具体と今後の課題

今年度の研究の目的は、養護教諭が考える生徒の健康課題を若年研修や全体研修で提案し、解決に向け、教職員間の生徒理解を深めるための協働を生み出すことである。従来は与えられたテーマで養護教諭が独自に研修内容を考えていたが、今年度は、様々な立場の教職員に聞き取りを行い、生徒の健康課題解決に向け、担任の困り感を軽減できるよう、現職教育や若年研修の時間を使い、実践的な研修内容に改変した。教員研修を重ねるごとに、教職員からの理解が得られ、教職員の行動に変化が見られた。特に様々な立場の教職員と協議していくことで、課題に対し、多角的にアプローチすることができた。今後の課題として、他の教職員が養護教諭へのニーズを正確に把握し、認識の相違を縮めていきながら課題解決策に向け、協働が図られるような実践が必要である。

１. 研究主題

中学校英語科授業の改善に向けて
－「教えて考えさせる授業」の実践研究－

綾川町立綾南中学校　教諭　久保　孝彰

２. 研究の具体と今後の課題

本研究の目的は、市川伸一の「教えて考えさせる授業」の授業構成である「教師からの説明」、「理解確認」、「理解深化」、「自己評価」の視点から言語活動の高度化へ向けた中学校英語科の授業改善を行うことである。そのために、本研究では「SUNSHINE ENGLISH COURSE」(開隆堂) を使用しながら、「教えて考えさせる授業」の視点から授業を構成し、文法指導パターンと本文指導パターンの２つの授業パターンを実践中である。これらの実践の中で、「理解深化」として、文法指導パターンでは、ペア活動やスピーチ活動等を言語活動の高度化へとつなげている。また、本文指導パターンでは、学習した内容を生徒が英語で話す活動であるリテリング活動を行っている。生徒の言語活動のさらなる高度化を目指して、授業中の活動時間の確保とその内容の充実を図るためのスモールステップの構想が課題である。

１. 研究主題

個別の指導計画の実践的な活用と継続した支援の在り方について

観音寺市立豊浜小学校　養護教諭　上枝　真実

２. 研究の具体と今後の課題

・昨年度の研究では、個の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援を、計画的、組織的に行うために、個別の教育支援計画と個別の指導計画を作成・活用することで、校内支援体制の整備を行った。しかし、関係機関との連携等に課題があることが分かった。
・本年度の研究では、個別のファイルを作成し、関係機関と連携することができた。その結果、学校内だけでは分からなかったことや支援のポイントなどが明らかになり、今後の支援につなげることができた。実践を通じて、子どもの理解を深めることの重要性等が確認された。
・共生社会を目指すことが国の方針として打ち出され、チームとしての学校が強調される中、今後も養護教諭としての専門性を充分に発揮し、学校内外の連携をコーディネートしていくことで、発達障害のある児童の早期からの一貫した指導・支援につなげていきたい。

１. 研究主題

小学校の特別支援学級の団経営の在り方について
－チーム力を高め、よりよい支援を行うために－

三木町立平井小学校　教諭　近藤　智子

２. 研究の具体と今後の課題

・複数の特別支援学級（知的、自閉・情緒、肢体不自由）がある小学校における特支団の経営の在り方について検討することを目的とし、実践を行った。
・チーム力を高めよりよい支援に結びつけるために、団会や支援体制週予定表の作成、個別の指導計画の検討会、特支団公開授業等に取り組んだ。
・特別支援学級担当者に対して５月と 11 月にアンケートを取り、意識の変容を比較したところ、「個別の指導計画」や「特別支援学級での学習」、「特別支援団」に関する項目に向上が見られた。
・今後の課題としては、「団会等をより短時間で効率よくするにはどうしたらよいか」や、「交流学級と連携を図るためにはどのような方法があるか」等が挙げられた。

１. 研究主題

肢体不自由特別支援学校におけるアセスメントの実施と活用に関する取り組み

香川県立高松養護学校　教諭　越智　早智

２. 研究の具体と今後の課題

・肢体不自由特別支援学校において、学習面や生活面で困難さがある児童生徒に発達検査等を実施し、指導や支援に活かすための校内支援体制作りや、校内連携について検討することを目的とする。
・小中学部の児童生徒５名に対して発達検査等を実施し、報告会を行った。結果を基に各担任が指導や支援を改善したことについて実践報告を行う。
・取り組みの効果としては、校内研修や自主研修を通して検査実施者の専門性が高まったとともに、関係職員と連携して認知面に焦点を当てた指導や支援を促すことができたこと等が挙げられた。
・今後の課題としては、肢体不自由のある児童生徒に対して身体面だけでなく認知面や発達段階に応じた指導や支援ができるよう校内研修を工夫することや小中学校との連携等が考えられる。